

東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻システム保存学

令和5年度修士課程入学試験（英語）

- * 以下に、問1から問3まで、3つの問題がある。指示に従って答えよ。
- * 答えは解答用紙に、問い番号、項目番号とともに記入せよ。

問1 下記の文章を読み、以下の問いに答えよ。

出典：E. May, Stone Biodeterioration, *In Cultural Heritage Micro-Biology -fundamental studies in conservation science*, Ed. by R. Mitchell and C.J. McNamara ASM Press, Washington, DC, 2010.

- (1) 上記の文章を和訳せよ。

氏名 _____

問 2 下記の文章を読み、以下の問いに答えよ。

出典：S. Shinozaki-Yabana et al., Molecular Identification of Bamboo-Boring Beetles from Frass by PCR Amplification, Science for Conservation, 61, 1-12, 2022

(1) 上記の文章を和訳せよ。

問 3. 以下の文を読み、以下の問いに答えよ。

出典 : D. Pinna and O. Salvadori, Processes of Biodeterioration: General mechanisms, *In Plant Biology for Cultural Heritage*, Ed. by G. Caneva, M. P. Nugari and O. Salvadori, Getty Publications, English translation 2008.

- (1) 下線 (1) を和訳せよ。
- (2) メラニンが果たす生態学的な役割について 100 字程度で説明せよ。

東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻システム保存学

令和5年度修士課程入学試験（基礎）

* 問1から問2まで、各6つの問題がある。指示に従って答えよ。

* 答えは問い番号、項目番号、選択問題の場合は選択した用語とともに、解答用紙に記入せよ。

問1 1～6の各項目につき、(a)～(c)の中から1題を選び、100字程度で説明せよ。

- | | | |
|---------------|-----------------|-----------|
| 1. (a) 壬申調査 | (b) 古器旧物保存方 | (c) 文化的景観 |
| 2. (a) 相対湿度 | (b) 湿り空気線図 | (c) 調湿剤 |
| 3. (a) 色温度 | (b) 演色性 | (c) 照度 |
| 4. (a) X線回折分析 | (b) 赤外吸収スペクトル分析 | (c) X線CT |
| 5. (a) 塩類風化 | (b) 天然記念物 | (c) 照明植生 |
| 6. (a) 曝涼 | (b) クリモグラフ | (c) 免震台 |

問2 1～6の各項目につき、(a)～(c)の3つの言葉を組み合わせて、文章を作れ。(100字程度)

- | | | |
|--------------------|------------------|---------------|
| 1. (a) 文化財の保存・継承 | (b) 用具・原材料 | (c) 担い手・後継者確保 |
| 2. (a) ビネガーシンドローム | (b) トリアセテートセルローズ | (c) マイクロフィルム |
| 3. (a) 化学物質の放散 | (b) 内装材料 | (c) 汚染空気 |
| 4. (a) 修復材料 | (b) 可逆性 | (c) 合成樹脂 |
| 5. (a) 大気汚染物質 | (b) 汗かき現象 | (c) 銅像 |
| 6. (a) DNAバーコーディング | (b) 分子生物学的手法 | (c) 遺伝子マーカー |

東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻システム保存学

令和5年度修士課程入学試験（小論文）

以下の文章は文化財保存修復学会の行動規範です。文化財を対象に自然科学的な手法で調査研究するシステム保存学として、守るべき倫理規定と言えます。

文化財は保存と公開の両立が求められますが、保存と公開は相反する面も持ち合わせています。また文化財の価値づけに調査研究は欠かせないものですが、同様に保存上、好ましくない場合もあり得ます。具体的な文化財の種別を想定し、その保存と公開の、あるいは保存と調査の問題点を指摘し、どのように克服するか、あなたなりのアイデアを、そう考えるに至った論拠を示して、1000字程度にまとめなさい。

* 答えは、解答用紙に記入すること。

文化財の保存にたずさわる人のための行動規範

（文化財保存修復学会 2008年7月8日制定）

前文 文化財は人や自然が作り出した、芸術的、歴史的または学術的に価値の高い有形、無形の遺産である。われわれは人類が共有するかけがえのないこの遺産を、自分たちの世代において活用するだけでなく、将来の世代のために保存しなければならない。文化財保存修復学会はそのため、文化財の保存と活用にかかわる科学・技術の発展と普及を図ることを目的とする。この目的を果たすため文化財保存修復学会会員は、専門家として責任を果たすとともに、社会の一員として社会の安全と安寧、人類の健康と歴史・文化および自然環境に対する責任を有することを自覚して行動する。また教育や普及などを通じて文化財の保存への理解を広め、この分野の発展につくす。

これらの認識の下に、文化財保存修復学会はここに行動規範を制定し、会員が守るべき規範とする。同時にこの行動規範は、広く文化財の保存にたずさわる人が守るべき規範となりうると信ずる。

1. 文化財への敬意

文化財保存修復学会会員は、文化財が人類の貴重な遺産であることを認識し、文化財への敬意を持って調査・研究、公開、保存・修復処置を行う。

2. 文化財の価値の尊重

文化財保存修復学会会員は、調査・研究、公開、保存・修復処置にあたっては、文化財の芸術的、歴史的または学術的価値を損なわないように、適正な方法や材料を検討して選択する。

3. 安全性の確保

文化財保存修復学会会員は、調査・研究、公開、保存・修復処置において用いる方法と材料などに、文化財に対して安全であり、かつ人間の健康や環境にも配慮して適正であるものを選択する。

4. 保存環境の重視

文化財保存修復学会会員は、文化財の長期的保存には保存環境の整備がもっとも重要であることを認識し、文化財にとってより良い保存環境の実現に努める。

5. 自己の研鑽

文化財保存修復学会会員は、学会活動や教育・研修などの機会を通じて自らの専門的知識、技術の維持向上に努めるとともに、その遂行において最善をつくす。

6. 専門家との協力

文化財保存修復学会会員は、文化財の保存が芸術・歴史・文化・自然科学など多くの分野にかかわることを自覚し、調査・研究、公開、保存・修復処置において、積極的に他の専門家の協力を求める。

7. 他者との関係

文化財保存修復学会会員は、他の専門家に対して誠実さと敬意を持って接し、他者の成果を適切に批判すると同時に、他者からの批判には謙虚に耳を傾け、この分野の発展に努める。

8. 記録の作成・保存・公表

文化財保存修復学会会員は、調査・研究、保存・修復処置にあたっては、信頼性を確保しつつ適正な記録や報告書を作成し、適切に保存・管理するとともに、公表につとめる。

9. 法令の遵守

文化財保存修復学会会員は、調査・研究、公開、保存・修復処置にあたっては、関係する法令や関係規則を遵守する。また他者の知的成果、知的財産権を尊重し、これを侵害しない。

10. 行動規範の遵守

文化財保存修復学会会員は、この行動規範を遵守し、他の会員にもそれをうながす。

東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻システム保存学

令和5年度修士課程入学試験（専門）

- * 次に問1から問3までの問題がある。指示に従って答えよ。
- * 答えは問い番号、項目番号、（選択する場合は選択した用語）とともに、解答用紙に記入すること。

問1 1～5の各項目について、(a)～(c)から1題を選び、100字程度で説明せよ。

- | | | |
|-----------------|--------------|-------------|
| 1. (a)文化財害虫 | (b)衛生害虫 | (c)不快害虫 |
| 2. (a)脱窒細菌 | (b)鉄酸化細菌 | (c)乳酸菌 |
| 3. (a)バイオフィルム | (b)生理活性物質 | (c)マイコトキシン |
| 4. (a)落下菌測定 | (b)付着菌測定 | (c)浮遊菌測定 |
| 5. (a)低酸素濃度殺虫処理 | (b)二酸化炭素殺虫処理 | (c)湿度制御温風処理 |

問2 文化財の修復作業において酵素を用いた処理が用いられている。その具体的な適応事例について以下の言葉をすべて用いて簡潔に述べよ。

- (a)デンプン糊 (b)高松塚古墳壁画 (c)アミラーゼ (d)タンパク質分解酵素
(e)ポリビニルアルコール (PVA) (f)キチン分解酵素 (g)微生物汚損 (h)PVA分解酵素

問3 1～5の各項目のうち、3題を選び、3つの言葉を組み合わせて意味の通る文章を作成せよ。

- | | | |
|--------------|-------------------|-------------|
| 1. (a)文化財IPM | (b)有効で適切な技術 | (c)有害生物 |
| 2. (a)発光量 | (b)ATP（アデノシン三リン酸） | (c)カビ |
| 3. (a)石造文化財 | (b)有機酸 | (c)地衣類 |
| 4. (a)緑藻 | (b)制限因子 | (c)光合成 |
| 5. (a)鉄酸化細菌 | (b)鞘状酸化鉄 | (c)パイプ状ベンガラ |

氏名 _____

東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻システム保存学

令和5年度修士課程入学試験（実技）

（1）文化財害虫事典を参照し、5つの昆虫標本（A, C, G, E, H）の生物種名を標準和名で答えよ。また、可搬型実体顕微鏡を正しく用いて、文化財害虫標本の記号 A についてのみ形態的特徴をスケッチすること。